

認知症になっても安心して暮らしていけるまちへ

全国初！ 認知症「神戸モデル」

～事業開始から1年～
＜昨年1月28日より開始＞



認知症になっても安心して暮らしていけるまちへ

全国初「神戸モデル」4つのポイント

① 65歳以上は、自己負担ゼロで医療機関における2段階方式の認知症診断が受診可能

② 認知症と診断された方は、市が賠償責任保険(最高2億円)に加入するなど手厚い支援を提供

③ 神戸市民が認知症の方が起こした事故に遭われた場合、見舞金(最高3千万円)を支給

④ これらの費用負担を将来世代へと先送りすることなく、市民のうすく広いご負担で賄う仕組み



認知症神戸モデル<イメージ>

診断助成制度

65歳以上の市民

第1段階 ※地域の医療機関
認知機能検診

認知症の疑いの有無を診る

疑いのある方

第2段階 ※専門の医療機関
認知機能精密検査

認知症かどうかと病名の診断を行う

認知症の診断

認知症の人

自己負担ゼロ
市が助成

賠償責任保険等に加入

事故救済制度

認知症の人が起こした事故

②最高2億円

①最高3千万円

賠償責任保険

保険料を市が負担

賠償責任があれば支給

・所在がわからなくなったら
かけつけ
(GPS安心かけつけサービス)

見舞金(給付金)
<全市民対象>

賠償責任の有無にかかわらず支給

2階建て方式

- ①見舞金は、賠償責任の有無にかかわらず支払い(被害者救済のために、速やかに支払い)
- ②その後、賠償責任があれば 賠償責任保険より支払い(その場合①の額は控除)

これらにかかる費用は市民のみなさまのご負担(個人市民税均等割1人あたり年間400円)でまかなう

2. 診断助成制度（平成31年1月28日開始）

BE KOBE

○申込み状況（令和元年10月末まで）

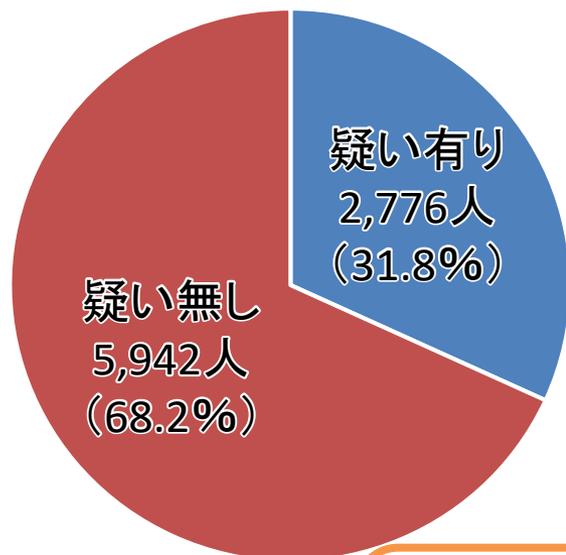
申込み数 11,156人

※75歳以上の方（約23万人）には順次受診券を送付。

○受診状況（令和元年9月末まで）

・認知機能検診（第1段階）

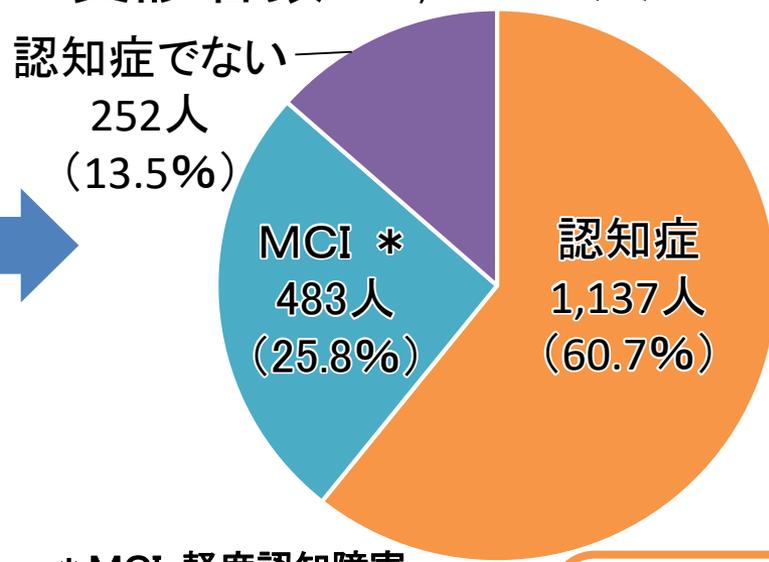
受診者数 8,718人



医療機関数 421

・認知機能精密検査（第2段階）

受診者数 1,872人



* MCI: 軽度認知障害

医療機関数 65

○支給状況

3件（見舞金2件、賠償責任保険1件）

	給付種別	給付額	事案の概要
事案1	見舞金 (財物損壊給付金)	15,932円	他人の所有する自転車を自宅へ持ち帰ってしまい、その自転車に損傷を与えた。
事案2	賠償責任保険	138,632円	飲食店で食事中に座席を汚損した。 ※支給対象者が法人(飲食店)であり見舞金の対象外となるため、賠償責任保険を支給
事案3	見舞金 (財物損壊給付金)	9,720円	自宅で着替え中にバランスを崩し、転倒。ガラス扉を割った。



○市民の声

《診断助成制度》

- ・制度ができて受診するきっかけとなった。
- ・受診の敷居が下がった(無料、身近な医療機関での受診など)。
- ・検診を受け、自分の状態が確認できた。
- ・運転免許の自主返納のきっかけとなった。

※検診時に啓発リーフレットを配布

《事故救済制度》

- ・賠償責任保険に入れたので安心して外出できる。
- ・家族に安心してもらえる。
- ・JR鉄道事故以来の不安が薄らいだ。

○その他の反響

出前トーク等
他都市視察

計 67回

3,149名参加

計 24回



○国での制度化

神戸モデルの取組みについて、国に対して、全国制度化を要望。

○診断後支援の充実

認知症の早期受診が進む中、診断後の日常生活への支援の充実が必要。

※元年度は、認知症疾患医療センター（市内7か所）で、診断後の専門医療相談・日常生活支援を5月より開始。

